令和 2年 6月30日

シ ラ バ ス

社会福祉法人白老町社会福祉協議会

科目番号・科目名	（１）職務の理解			
指導目標	＜ねらい＞ 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 ＜指導の視点＞ ・研修課程全体（４３時間）の構成と各研修科目（６科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ・視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要（別紙でも可）
① 多様なサービスと理解 ② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	2.0	2.0	0.0	＜講義内容＞ １．多様なサービスの理解 〇介護保険サービス（居宅）、〇介護保険外サービス ２．介護職の仕事内容や働く現場の理解 〇居宅の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 〇居宅の実際のサービス提供現場の具体的イメージ （視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等） 〇生活援助中心型の訪問介護で行う業務の範囲（歩行等が不安定な者の移動支援・見守りを含む）
（合計時間数）	2.0	2.0	0.0	

使用する機器・備品等	

科目番号・科目名	（2）介護における尊厳の保持・自立支援
指導目標	＜ねらい＞ 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。。 ＜修了時の評価のポイント＞ ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、ＱＯＬ、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを理解している。 ＜指導の視点＞ ・具体的な事例を複数示し、利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ・具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ・虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要（別紙でも可）
①人権と尊厳を支える介護	4.00	2.00	2.00	＜講義内容＞ （１）人権と尊厳の保持　〇個人として尊重、〇アドボカシー、〇エンパワメントの視点、〇「役割」の実感、〇尊厳のある暮らし、〇利用者のプライバシーの保護 （２）ＩＣＦ〇 介護分野におけるＩＣＦ （３）ＱＯＬ　〇 ＱＯＬの考え方、〇生活の質 （４）ノーマライゼーション　〇ノーマライゼーションの考え方 （５）虐待防止・身体拘束禁止　〇身体拘束禁止、〇高齢者虐待防止法、〇高齢者の養護者支援 （６）個人の権利を守る制度の概要　〇個人情報保護法、〇成年後見制度、〇日常生活自立支援事業
②自立に向けた介護	2.00	1.00	1.00	＜講義内容＞ １）自立支援　〇自立・自律支援、〇残存能力の活用、〇動機と欲求、〇意欲を高める支援、〇個別性/個別ケア、〇重度化防止 （２）介護予防　〇介護予防の考え方
（合計時間数）	6	3	3	

使用する機器・備品等	

科目番号・科目名	（4）介護・福祉サービスの理解と医療との連携
指導目標	＜ねらい＞ 介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ等について、その概要のポイントを列挙できる。 ＜修了時の評価のポイント＞ ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解している。 ・介護保険制度や障害福祉制度の理念と保険料負担、本人負担について理解している。　例：利用者負担割合 ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて理解している。 ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について理解している。 ＜指導の視点＞ ・介護保険制度・障害福祉制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を促す。 ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害福祉制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要（別紙でも可）
①　介護保険制度	1.00	0.25	0.75	＜講義内容＞ （１）介護保険制度創設の背景及び目的、動向　〇ケアマネジメント、〇予防重視型システムへの転換、〇地域包括支援センターの設置、〇地域包括ケアシステムの推進 （２）仕組みの基礎的理解　〇保険制度としての基本的仕組み、〇介護給付と種類、〇予防給付、〇要介護認定の手順 （３）制度を支える財源、組織・団体の機能と役割　〇財政負担、〇指定介護サービス事業者の指定
②　医療との連携・リハビリテーション	1.00	0.50	0.50	＜講義内容＞ 〇訪問看護
③　障がい者総合支援制度およびその他制度	1	0	1	＜講義内容＞ （１）障害福祉制度の理念　〇障害の概念、〇ＩＣＦ（国際生活機能分類） （２）障害福祉制度の仕組みの基礎的理解　〇介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで （３）個人の権利を守る制度の概要　〇個人情報保護法、〇成年後見制度、〇日常生活自立支援事業
（合計時間数）	3	1	2	

使用する機器・備品等	

科目番号・科目名	（５）介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	＜ねらい＞ 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、生活援助中心型サービスの職務に従事する者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。 ＜修了評価時のポイント＞ ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。 ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。 ＜指導の視点＞ ・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要(別紙でも可)
①　介護におけるコミュニケーション	4.00	2.00	2.00	＜講義内容＞ （１）介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 　〇相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、〇傾聴、〇共感の応答 （２）コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション　〇言語的コミュニケーションの特徴、〇非言語コミュニケーションの特徴 （３）利用者、家族とのコミュニケーションの実際　〇利用者の思いを把握する、〇意欲低下の要因を考える、〇利用者の感情に共感する、〇家族の心理的理解、〇家族へのいたわりと励まし、〇信頼関係の形成、〇自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、〇アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い （４）利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際　〇視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、〇失語症に応じたコミュニケーション技術、〇構音障害に応じたコミュニケーション技術、〇認知症に応じたコミュニケーション技術

② 介護におけるチームのコミュニケーション	2.00	1.00	1.00	＜講義内容＞ （１）記録における情報の共有化　〇介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、〇介護に関する記録の種類、〇個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）、〇ヒヤリハット報告書、〇５Ｗ１Ｈ （２）報告　〇報告の留意点、〇連絡の留意点、〇相談の留意点 （３）コミュニケーションを促す環境 〇会議、〇情報共有の場、〇役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）、〇ケアカンファレンスの重要性
（合計時間数）	6	3	3	

使用する機器・備品等	

科目番号・科目名	（８）こころとからだのしくみと生活支援技術
指導目標	＜ねらい＞ ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する基礎的知識を習得し、生活援助中心型サービスの安全な提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ＜修了時の評価のポイント＞ ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 ・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを理解している。 ・人体の構造や機能の基礎的知識を習得し、何故行動が起こるのかを概要を理解している。 ・家事援助の機能の概要について列挙できる。 ・移動・移乗の意味と関連する用具・機器、および移動・移乗に関するからだのしくみを理解し、立ち上がりや移動の際の声かけ、歩行等が不安定な者の移動支援・見守りを行うことができる。 ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法のポイントを理解し、食事に関するからだのしくみを理解している。 ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみを理解している。 ・ターミナルケアの考え方について列挙できる。

	＜指導の視点＞ ・生活援助を中心とする介護実践に必要とされるこころとからだのしくみの基礎的な知識を理解させ、具体的な身体機能の概要が理解できるよう促す。 ・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要(別紙でも可)
①　介護の基本的な考え方	3.5	1.5	2.0	＜講義内容＞ 〇理論に基づく介護（ＩＣＦの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、〇法的根拠に基づく介護
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2	1	1	＜講義内容＞ 〇感情と意欲の基礎知識、〇自己概念と生きがい、〇老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	2	1	1	＜講義内容＞ 〇人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、〇骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、〇中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、〇自律神経と内部器官に関する基礎知識、〇こころとからだを一体的に捉える、〇利用者の様子の普段との違いに気づく視点
(合計時間数)	7.5	3.5	4.0	

使用する機器・備品等	

科目番号・科目名	(８)こころとからだのしくみと生活支援技術			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要(別紙でも可)
①　生活と家事	2	2	0	＜講義内容＞ 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 　〇生活歴、〇自立支援、〇予防的な対応、〇主体性・能動性を引き出す、〇多様な生活習慣、〇価値観
②　快適な居住環境整備と介護	2	1	1	＜講義内容＞ 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点　　〇家庭内に多い事故

③　移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5	1	4	＜講義内容＞ 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解、移動と社会参加の留意点と支援　〇利用者の自然な動きの活用、〇残存能力の活用・自立支援、〇重心・重力の働きの理解、〇ボディメカニクスの基本原理、〇歩行等が不安定な者の移動支援・見守り（車いす・歩行器・つえ等）
④　食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	2	1	1	＜講義内容＞ 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援　〇食事をする意味、〇食事のケアに対する介護者の意識、〇低栄養の弊害、〇脱水の弊害、〇食事と姿勢、〇咀嚼・嚥下のメカニズム、〇空腹感、〇満腹感、〇好み、〇食事の環境整備（時間・場所等）、〇食事に関わる福祉用具の定義、〇口腔ケアの意義、〇誤嚥性肺炎の予防
⑤　睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	2	1	1	＜講義内容＞ 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 〇安眠のための介護の工夫、〇環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、〇安楽な姿勢・褥瘡予防
⑥　死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	1.5	1.0	0.5	＜講義内容＞ 終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援
（合計時間数）	14.5	7.0	7.5	

使用する機器・備品等	視聴覚教材使用 介護用ベッド、車いす、歩行補助具等

科目番号・科目名	（8）こころとからだのしくみと生活支援技術			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要（別紙でも可）
⑦　介護過程の基礎的理解	2	1	1	＜講義内容＞ 〇介護課程の目的・意義・展開、〇介護課程とチームアプローチ
（合計時間数）	2	1	1	

使用する機器・備品等	

科目番号・科目名	（９）振り返り			
指導目標	＜ねらい＞ 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。 ＜指導の視点＞ ・「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点を持って生活援助中心型の介護サービスを行えるよう理解を促す。 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ・修了後も継続的に学習することの重要性について理解を促し、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。 ・介護職の仕事内容や働く現場、事業者等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。（視聴覚教材、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等）			
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要（別紙でも可）
振り返り	2	2	0	＜講義内容＞ １．振り返り　〇研修を通して学んだこと、〇今後継続して学ぶべきこと　〇根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） ２．就業への備えと研修修了後における継続的な研修　〇継続的に学ぶべきこと、〇研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージができるような事業所等における実例（ＯＦＦ－ＪＴ、ＯＪＴ）を紹介
（合計時間数）	2	2	0	

使用する機器・備品等	